平成 28 年度第 1 回印西市教育振興基本計画生涯学習編検討委員会　会議録

1. 日　　時　　平成 28 年 7 月 7 日（木）午後 1 時 30 分～午後 3 時まで
2. 場　　所　　文化ホール　2 階　大会議室
3. 出席委員　　福留強委員（委員長）、桜井繁光委員（副委員長）、常光康介委員、
　　髙城國司委員、篠原年枝委員、伊藤明生委員、谷口由美子委員、
　　對馬由佳委員、櫻井圀郎委員
　　※途中退席　常光康介委員、谷口由美子委員
4. 欠席委員　　なし
5. 事 務 局　　印西市大木教育長、生涯学習課　飯島課長、関口、五十嵐
　　山崎教育総務課参事
6. 傍 聴 者　　なし
7. 議　　事　　（1）計画の策定方針について
　　（2）アンケート調査の概要説明（報告）
　　（3）その他
8. 意見交換　　市の生涯学習分野にかかる意見交換
9. その他　　（1）今後のスケジュールについて
　　（2）ご意見シートについて
10. 議 事 録　　要点筆記

◇委員長及び副委員長選出

委員の互選により、福留強委員（委員長）、桜井繁光委員（副委員長）を決定した。

議事（1）～（3）

～事務局より（1）～（3）に関する資料を説明

委　員：市民アンケートの対象者数 1500 名の根拠について教えて欲しい。

事務局：20 才以上の市民 1500 名に配布し、回答数を 4 割前後と想定した。4 割に相当する約 600 人は、20 才以上の人口に対し、統計データとして有意な回答数である。当初は 1500 名の倍以上を対象にすることも検討したが、予算上、1500 名とした。保護者アンケートは学校を通じて配付・回収を行い、回収率向上を図っている。

委　員：保護者アンケートの対象学年の根拠について教えてほしい。

事務局：いずれも真ん中の学年を対象に、幼稚園は年中、中学校は 2 年生とした。小学校は、1～2 年生は幼稚園児に近く、5～6 年生は中学生に近いため、4 年生を対象とした。学年を分散するよりも集中した方が回収率も上がると考えている。

委員長：生涯学習の捉え方を委員の皆さんに明確にもっていただくため、生涯学習の概念を説明する。生涯学習は、単独で捉えるものではなく、学校教育、家庭教育を含めたものと考える。このことは重要なことなので絶対忘れないようにしてほしい。

生涯学習は、図書館や公民館の講習をイメージする皆さんも多いと思う。生涯学習の概念は、法律で明確に規定されていないが、人が生涯にわたって、学び、学習活動を続けていくことである。

日本においては、「人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、自発的意思に基づいて行うことを基本とし、必要に応じて自己に適した手段・方法を自ら選んで、生涯を通じて行う学習」という定義（昭和56年の中央教育審議会答申「生涯教育について」より）が広く用いられ、現在も使われている。

「生活の向上」の意味について範囲が広すぎて法律化ができていないが、商店街の活性化や職業能力も含まれ、私は「儲けることも生涯学習」と説明してきた。例えば、商店は1円でも儲けることが生涯学習であり、農家は米をたくさん作ることが生涯学習なのである。

資料（策定方針）に計画の位置づけが示されているが、本来は社会教育法が入っていなければならない。社会教育法があるから図書館や博物館ができるのである。生涯学習の概念は誤解されやすいので、計画やアンケートにおいても明確に示すことが望ましい。アンケートそのものが生涯学習の啓発にも役立つと思う。

今後、印西市は教育振興基本計画を一本化するが、これは正しい方向だと思う。スポーツや文化・芸術まで含めると、市民の90%が生涯学習に参加していると思う。さらに、アンケート結果を前回調査との比較、他自治体との比較を行いながら、よりよい計画策定につなげたいと考える。

事務局：アンケート結果の活用方法を説明する。単純集計は世論調査などとの比較を行う。回答者属性を用いて地域や年齢毎の意見、設問同士のクロス集計などを行い、傾向や課題をまとめていく。アンケート結果をどのように活用するかは、委員会で十分に議論していただきたい。

委　員：生涯学習は誤解されていると思う。学校教育、家庭教育、社会教育、スポーツ教育、芸術・文化教育、ボランティア活動のすべてを含めて生涯学習である。また、委員長の発言にあったが、お金を儲けること、地位や知識を手に入れることまでを含めて生涯学習だという。折り紙やゲームまで生涯学習と捉えられることもあるが、そうではないということを啓発していく必要がある。

委　員：アンケート結果をまとめて、現行の施策と擦り合わせながら、計画案を出すのはいつ頃になるのか。

事務局：次回の会議で、調査結果とそれを踏まえた計画のたたき台を示していきたい。

委　員：保護者アンケートにいじめの設問がある。この意図を教えてほしい。

事務局：いじめ防止や対応に印西市としてどのようなことに力をいれたら良いかについて、幼稚園や学校に通っている子どもの保護者の考えを聞きたいという意図である。

委員長：社会教育とは行政計画である。行政計画は行政の責任で進めるものであり、今までの社会教育は、市民の要求に応えるということが求められてきた。

一方で、学習計画は個人が立てるものであり、義務ではないので行きたくない教室もあるはずで、だからこそ、調査が必要になる。しかし、市民が要求しなくとも

提供していかなければならない学習はあるはずであり、これが計画の最大の主題になる。学校教育は教育課程が決まっているが、社会教育は、国民の学習内容を決めることはできない。決めてしまうと戦前の教育になってしまうから、それをやめている。だからこそ、現代的な課題を捉えることが必要になる。こうした点に配慮した上で、計画の中に意見を反映させていくことが大事だと思う。つまり、要求だけでなく、要求以外で市が提供していく必要のあるものも加えることである。

印西市は「日本で一番住みやすいまち」と言われている。そのことを最大に生かすことがポイントである。そこを配慮して計画案を出してほしい。

委　員：市民意見を聞く方法として、アンケート以外に関係団体の聞き取り調査を行うということだが、その説明をしてほしい。

事務局：関係団体調査は、市民アンケートや保護者アンケートと比較して質問の数は多くないものの、意見を自由に書いていただく内容になる。対象団体は調整中だが、今月中にはシートを配布する予定。回答を頂戴した上でヒアリングを検討する。

＜意見交換　　市の生涯学習分野にかかる意見交換＞

委　員：生涯学習という言葉がかなり多様に使われており、一般市民の使い方と、国や地方の使い方に落差があると感じている。私は、生涯学習の本質を意識しながら議論を進めることが不可欠だと思っている。

また、印西市が「日本で一番住みやすいまち」ということが 3 年ほど続いており、今年も日本一になりそうだと言われている。そのためにも、他の市が真似のできないような施策を行っていく必要がある。

他の自治体や県の教育関係では、折り紙やゲームなどが生涯学習だと誤解されがちのようである。特に高齢者が対象となると、なおさら、簡単なものになってしまいがちであるが、むしろ、学習意欲を高め、プラスの方向にもっていくことが生涯学習の方向性と考えている。

委　員：生涯学習はカルチャー的な教室としか思っていなかった。これだけ幅広く、深いものだということを初めて知った。現在は子育て中のため、子どものための生涯学習を中心に考えていきたい。

委　員：図書館に関わっている。図書館の開館時間も少しずつ延長され、生涯学習との接点も広がっている。そろそろ老後のことを考える年齢なので、これから勉強させていただきたい。

委　員：生涯学習について知らないことが多く、大変勉強になった。私は、印西市の市民アカデミーで学び、その後、ボランティア活動を始めて 10 年余り、幼稚園、小学校、高齢施設に出向いて活動している。

生涯学習の活動登録をしているが、なかなか要請がかからないため、施設に直接出向き、ボランティア活動をしている。他のボランティア団体とのつながりも増え、お互いに協力しあっている。楽しく活動するために、横のつながりの重要性を感じている。

委　員：社会教育委員を８年ほどやっている。毎年、関係者が集まりスローガンを掲げて、活動しているが、関係者だけの活動になりがちで、一般市民は社会教育に関心を持っていない。今回、市民アンケートや保護者アンケートをすることにより、社会教育が一般の方々が理解を深めていくきっかけになればよいと思っている。

事務局：先ほど退席した委員から予め意見をいただいているので代読する。

「本日は第一回にもかかわらず、所用で委嘱状交付のみの出席となり誠に申しわけありません。これまで図書館や公民館のサークルを通じて生涯学習に接してきたと思いますが、まだまだ勉強不足です。これからは委員会を通してさまざまなことを学びながら、印西市の生涯学習のためにお役に立てるように努力してまいりたいと考えています。」

委　員：長い間、企業内教育に携わってきた。数年前に社会教育委員に任命され、初めて生涯学習に触れ、幅の広さにまず驚いた。費用対効果も考えながら、印西市のあるべき５年、10 年後の姿をイメージし、年齢や階層に適した教育を実施することが生涯学習の目標だと考えている。

委員長：５年前の策定委員会で、私が関わっている鹿児島県志布志市の話をした。当時の印西市の担当職員は志布志市まで研修に出かけるなど、積極的だった。しかし、今回の計画策定には、志布志市に研修に行った職員は誰も関わっていない。現在の市長はそのことを知らなかったが、当時の優秀なスタッフを計画策定後に部署を移動させたことについて、苦言を呈した。

５年たった現在、志布志市の公民館でつくった焼酎「創年の志」が全国発売になった。社会教育の場である公民館に高齢者が多く集まったが、年金だけでは食べていくこともできず、仕事をどうつくっていくかを考えた結果が全国初の公民館での焼酎づくりであった。

志布志市の市民大学「創年市民大学」は、生徒会や修学旅行もあり、博士資格を取得するしくみもつくった。さらに、市民大学の人たちが朝晩、パトロールをして子どもたちを見守っており、犯罪が３割減少した。また、図書館で学んだ受講生が昨年秋の国民文化祭で、全国エッセイコンテストを主催している。

これらは、志布志市の公民館から出た社会教育である。こうした社会教育を印西市でも進めてほしいと思っている。志布志市の職員に「これからはどこの自治体がすごそうか」と聞かれ、「これからは千葉県の印西市だろう」と答えた。

私は、取手市の「まち・ひと・しごと」の創生会議の委員長をしている。当初 20 人のメンバー中、女性は２人しかいなかった。もっと増やしてほしいと言ったら、翌月から実行してくれた。その結果、女性だけの講座などもでき、市民がおもしろがって、ワクワク、ドキドキするイベントも始まった。意見を出しあいながら、印西市でも夢のある計画を策定したい。

＜その他＞

～事務局よりスケジュール、策定委員会の委員選出、ご意見シートを説明

委　員：委員長に質問したい。サークル活動を趣味でやっている高齢者がたくさんいるが、そういう活動も生涯学習に入るのか。

委員長：当然、サークルは生涯学習のひとつである。

寿命が延びたが、「老人」と言われてうれしい人はいない。「創年」とは年齢×0.7である。年齢は自分で決めるものであり、「創年」は商標登録ではないと思う。

来年から全国の創年達を対象とした番組をケーブルテレビで制作する予定。7月には松戸市で「創年のたまり場」会議を行う。

印西市の公民館を含めて「青少年おもてなしカレッジ」という学習を全国10か所でやっており、オリンピックまでに1万人の若者を育てる構想を進めている。おもてなしの心を身に付けた人材を小学校5年から育てる。挨拶や身の回りのことができる、自己表現ができる、高校生には外国語での挨拶などのプログラムを組み、その指導者に創年をあてていく予定である。

◇委員会として、福留委員長、桜井副委員長を策定委員会の委員とする。

◇ご意見シートは、７月中に各委員から事務局への提出を依頼

以上

平成２８年度第１回印西市教育振興基本計画生涯学習編検討委員会の会議録は、事実と相違ないので、当会は、これを承認をする。

平成２８年８月１９日

印西市教育振興基本計画生涯学習編検討委員会

署名委員　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿